

はじめに

閉塞感が高まる、地域、日本、世界。独裁者に近い市長が誕生している。また、一方で、情報がアラブ諸国で独裁を打ち破った2011年であった。2011年は、21世紀に入ってはや10年たった年であった。この年は、若者が世界を動かした。アメリカのウォールストリートでも、「ウォール街を占拠せよ」という若者が組織をバックにせず、SNSをはじめとしたツールで集まった。彼らはそれぞれ、自発的な政治的スローガンを掲げたが、「1%の人が多くのものを持ち、99%の人々を虐げている」、この所得を公平にせよという主張は、先進国内で、途上国と先進国に広がる格差（市場原理主義が根源）への意義申し立てであったのである。日本の若者は？

こんな時代だからこそ、市民として育ち、能動的に政治、経済の主権者として、働きかける力をつける。そんな問題意識から本書を世に問いたい。また、近來とみに、21世紀に入って、シティズンシップ教育に注目が集まってきた。競争的な社会で、公的（We）な政治的関心が薄れ、経済雇用福祉の私的（I）な空間への関心にシフトしている。

そこで本書では、市民の目線から、市民になるとはどういうことかを視点に常におきたい。成長発達途上の中学生・高校生に社会科・公民科教育の果たす役割が大きいと信じて議論を提供する。